

こども通信

塚田こども医院

小児科・アレルギー科

 上越市栄町 2-2-25
 TEL 025-544-7777(代)
 025-544-7779(保育室)
 FAX 025-544-8456

 各種ネット予約
 www.0255447777.com/i
 ホームページ
 www.kodomo-iin.com

冬のあとは春。そんな当たり前のことがやってくるのか心配した厳しい冬でしたが、やはり、春到来。すでに桜が満開です。

新しい年度に入り、気持ちもリフレッシュ。これで新型コロナウイルスさえなければ、春を満喫できるのですが。

その新型コロナに、私

ちの生活が翻弄されています。当院もここ一年あまり、大きな影響を受けました。罹患者が出ないよう、日々緊張していました。

もしもに備えて、医師を含めて全職員を2つに分け、さらに出勤日を別にするというスプリット制度を当初は採用しました。

その後は政府の雇用調整助成金を利用しながら、職員の勤務を調整しています。



診察室での密集を避けるためにドライプスルーを設置。水曜午後も通常通りの診療体制を作りました。外来受診者数が減少し、いろいろな意味で余裕が

意味で余裕ができたことが、次へのアクションに繋がっています。

私(院長)自

身も、空いた時間を使って漢方の勉強を本格化。それが今月からの「おとな漢方外来」設置という成果を生みました。

新型コロナの影響は甚大ですが、それを契機に診療体制の見直しをしてきたところです。「転んでもタダでは起きない」

「人生に起きる全てのことには意味がある」そんな言葉を噛み締めています。

感染症情報

子どもたちの中で特に目立った感染の流行はありません。

感染性胃腸炎が少し発生しています。小児は脱水や低血糖になりやすく、ぐったりとしている場合はすぐに受診して下さい。

溶連菌感染症と**アデノウイルス性咽頭炎**が少数ですが発生しています。溶連菌感染症は抗菌薬の治療が必要です。

インフルエンザ、**風疹**、**麻疹**の発生は当地ではありません。

子どもに限ったことではありませんが、やはり**新型コロナウイルス感染症**がとても心配です。緊急事態宣言が解除されたあと、関西圏や首都圏で再び患者数が増加。変異株の発生数もずいぶん増えてきているようです。このままでは「第4波」になりそう。それもこれまでより大きな規模になるかもしれません。

春になり、お花見があり、年度替わりに伴う行事も多々あり、特に都市部で感染機会が増加しています。心配です。

その一方で、日本でのワクチン接種は遅れていて、まだ医療従事者の一部に接種が始まったばかり。高齢者や一般の方々が接種を受けられるのはまだずいぶん先になります。

やはり、各自で感染予防の対応を引き続きしっかり行っていく必要があります。流行地との往来を避け、多人数での会食を控えるなど、不必要な接触を避けましょう。またマスク着用、手洗い、周囲の人との距離を十分にとるなどの対応もしっかり行ってください。

●「おとな漢方外来」の開設

大人の方の漢方薬治療も増えてきたので、専用の外来を開設することにしました。

- ・毎週水曜午前(予約制)
- ・高齢者を含む成人の方
- ・院長が担当

通常の診療の中でも対応いたしますので、院長の外来へどうぞ。

なお、子どもたちの漢方治療は引き続き通常の診療の中で対応していきます。

今月の予定

院長出務

上越市立谷浜小学校健診 21日

上越市夜間診療所出務 21日(副院長)

上越有線放送「健康ライフ」20日

FM上越「Dr. ジローのこども健康相談」

毎週木曜午後1:20頃～(76.1MHz)

感染症情報(毎週)

FM上越: 木曜午後1:35頃～

上越有線放送: 月曜午後6時～(番組内)

子どもにも大人にも

私が漢方薬に出会ったのは、医師になって20年ほど経ってから。それまでは西洋薬による治療のみを行い、漢方薬を使うことはありませんでした。それが今では、子どもたちの治療の中でも漢方薬を積極的に使用し、大人の方にも使い出しているのですから、昔の自分が見たらびっくりと変わったなと思うことでしょうね。

私が受けた医学教育の中に漢方薬学ぶ機会はありませんでした。現在はきちんとした講座があり、医学部の授業で学んでいますので、若い医師にはもともと馴染みがあります。

さらに、医師になった後の小児科研修でも、漢方に精通している指導医はいませんでした。お一人だけ、すでに開業していた小児科医が「夜泣きに効く漢方薬があるよ、困ったら使っているといいよ」と教えてくれました。でも、その時はあまり本気には受け止めていませんでした（失礼しました）。

●漢方薬との出会い

漢方薬は胡散臭いと思っていた私が「宗旨替え」した最初のきっかけは自分自身の体験です。

ある日の夜、腸炎になり、とても強い腹痛で七転八倒（実際にはトイレから出られない状態）。手持ちの鎮痛剤を使いましたが、効果なし。あまりに強い痛みなので、救急車を呼ぶことも頭をよぎりました・・

そんな時、ある漢方薬がバッグに入っていることを思い出しました。数日前、漢方薬メーカーの方が情報提供に来た時に、サンプルにもらったものです。

それを内服したところ、数分で痛みが和らぎ、その後朝までベッドで眠ることができました。「五苓散」という胃腸炎によく使う漢方です（頭痛にも効果あり）。

この体験は強烈でした。漢方薬に効果がある、それも西洋薬以上の効果！我が身をもって知りました。

その後、少しずつ漢方を使うことが多くなっていきました。当初は手探り。まだ恐る恐るといった状態で

したが、積極路線に転換するきっかけになったのは、やはり自分の体験です。

私は乳児期に腸重積をわずらい、開腹手術を受けています。そのために大腸の癒着が数カ所あるのですが、時々これが問題を起こします。便通を整えていないと、癒着部分の通過障害を起こし、腸閉塞に近い状態になります。とても強い腹痛です。

漢方薬の書物に「大建中湯」という薬の紹介を見つけました。「開腹術後の腸管通過障害に効果あり」と。まさしく私の病状です。

1週間ほど飲んだだけで、腹痛を伴う排便は少なくなりました。長期に飲んでいると、自分の病状を忘れるくらいに。今は腹痛がある時だけ内服しています。

この漢方薬も、私の人生の半分以上を悩ませていた病気を解決に導いてくれたわけで、「命の恩人」のように感じています。

●家族で漢方薬の効果を確認

当初は家族に漢方薬を「試験」していました。

風邪をひいた時に使う漢方薬が数種類ありますが、自分を含めて使ってみる中で、西洋薬とは違う効果を確認しました。こんな人がこんな状態ならこの漢方がよく効く、といった経験も積みました。

花粉症も、西洋薬以上に漢方薬が症状を抑えてくれることが分かりました（私は花粉症がないので、これは自分では確かめられず、残念）。

頭痛、腰痛、関節痛、筋肉痛、こむら返り、ぎっくり腰などに漢方薬を使うと、速攻で効果があることも知りました。

家族には「実験台」になってもらい感謝です。

中国で生まれ、昔の日本に渡って、独自の発展を遂げた漢方薬。これを上手に使わない手はありませんね。

漢方薬についての勉強は自学です。書物を読み、講演会を拝聴するなど。とても専門家と呼べる域には達していませんが、生涯勉強を続けて行くことができますでしょう。

お悩みのことがありましたら、一緒に漢方薬を試してみましよう。